

# 小学校第6学年 学級活動指導案

期 日 平成25年10月18日(金)第5校時  
 場 所 水俣第一小学校 6年1組教室  
 指導者 教諭 瀬口 歩美

## 1 議題名 「卒業に向けて話し合おう」 (活動内容1)

### 2 議題について

#### (1) ねらいについて

本議題は、学習指導要領の「学級を単位として、信頼し支え合って楽しく豊かな学級や学校生活をつくとともに、日常の生活や学習に自主的に取り組もうとする態度の向上に資する活動を行うこと。」を受けて設定した。

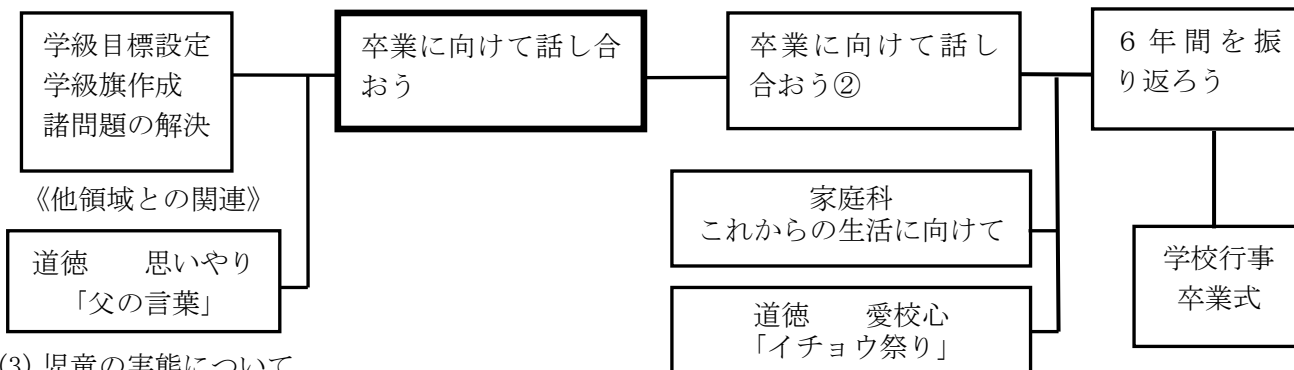
本学級では、「38人で絆を深めよう 仲良く楽しく元気よく 心を一つに助け合い 笑顔いっぱい 6の1 卒業に向かって突き進め！」という学級目標(合言葉)を設定し、目標達成に向けて、日々の活動に取り組んでいる。6年生になって半年が過ぎ、互いに声をかけ合って活動する姿が見られるようになってきた。また、学校のリーダーとしての意識も高まりつつあり、特に運動会に向けた練習や活動では、自分の役割を果たそうと積極的に取り組む様子が見られた。

本議題は、半年後に迎える卒業を見据えた提案である。中学校へ進学するにあたり、離れ離れになってしまう友達も少なからずいる中、「クラスの仲間との絆をもっと深めていきたい」、「仲間と一緒に過ごせて本当によかったという気持ちで卒業したい」という子どもたちの思いから、本議題が提案された。

本議題について話し合い、実践していくことを通して、児童相互のつながりをこれまで以上に強くし、学級目標により近づくことができると考える。また、決まったことを協力して実践していく過程で、お互いのよさを発見したり、達成感を味わったりすることができると考え、本議題を設定した。

#### (2) 本議題の系統と教科・他領域との関連は次の通りである。

##### 《学級活動》



#### (3) 児童の実態について

本学級の児童の実態は次の通りである。(男子18名、女子16名、計34名)

##### 【10月に実施したアンケートの結果】

項 目	A	B	C	D
① あなたは、クラスや学校は楽しいと感じていますか。	18	15	1	0
② あなたは、クラスの中の大切な一員だと思えますか。	9	20	4	1
③ あなたは、クラスの中で自分の意見が言えていますか。	8	16	9	1
④ あなたは、みんなで決めたことを、協力して行っていますか。	22	11	1	0
⑤ このクラスの人、学級目標に向かって学級をよくしようとしていると思えますか。	13	14	6	1
⑥ このクラスの絆は深まっていると思えますか。	8	17	8	1
⑦ あなたは、話し合い活動が好きですか。	13	12	9	0

(A: とてもそう思う B: だいたいそう思う C: あまりそう思わない D: 全くそう思わない)

本学級の児童は、全体的に活動的で、当番活動や係活動にも進んで取り組む児童が多い。学校をよりよくしたいという思いも強く、委員会活動等、自分の役割を進んで果たす姿が見られる。学級内においても、全員遊びの企画や運動会に向けたリレーの練習など、意欲的に取り組んできた。そういった活動の過程で、友達を思いやって活動することの大切さやよさも味わってきている。一方で、まだまだ自己中心的な言動が見られる児童が数名おり、集団活動を通して、周囲に合わせたり、他児童に思いやりを持って接したりすることのできる力を身に付けさせる必要がある。

話し合い活動については、「色々な意見を聞くことができて楽しい」、「みんなでクラスのことを決めて、行動できるから楽しい」などの理由で肯定的にとらえている児童が多い。一方で、「発表が苦手」、「なかなか意見がまとまらない」という理由で苦手意識を持っている児童もいる。また、話し合いの中で、友達の意見を尊重して代案を出したり、自分の意見を変えたり、考えを高めたりすることを苦手とする児童が多い。そのため、話し合いが進んでいくと、積極的に発言する児童だけに任せてしまいがちな場面が多く見られる。話の聞き方や話し合いの進め方についても、まだまだ課題が多く、教師の助言や指導が必要である。

#### (4) 指導上の留意点

- (事前) ○全員が自分の意見を持って学級会に参加できるよう、学級会シートに考えを記入する時間を確保する。
- 言語技術レベルカードについては、学級会だけでなく、普段の教科の授業でも活用し、自己評価と学級全体の評価を学期ごとにして、レベルの向上を目指していく。
- 児童が自信を持って発言できるよう、学級会シートに目を通し、励ましておく。
- 司会グループと進行マニュアルの作成など打合せを行い、自信を持って進行できるようにする。
- 卒業式までのイメージを持たせ、話し合いに意欲的に参加できるようにする。
- (本時) ○活動内容について学級目標や提案理由を基に話し合わせることによって、話し合う目的がずれないようにする。
- 話し合いの最後に、児童が自分の活動を振り返ることによって、今後の話し合い活動への意識付けと実践への意欲を高めていく。
- 児童のよさを見つけて認め励まし、話し合い活動に対する意欲を高める。
- 話し合いがそれた時や意見がまとまらない時には、教師が早めに助言をする。
- (事後) ○役割分担表や、実践後の振り返りシートを作成し、一人一人の活動への取組と実践を通して学んだことを記録させ、学びの足跡を残しておく。
- 個人や学級の進歩など具体的な事実を取り上げて評価し、次の活動への意欲を持たせる。

<b>【視点1】</b> 思考力・判断力・表現力等の育成	<b>【視点2】</b> 学習評価と指導の改善	<b>【視点3】</b> 情報活用能力の育成
<p><b>【視点1】</b> 本議題では、これまでに培った話し合いの進め方、ルールや折り合いの付け方等を活用し、経験や体験と関連付けながら自分の考えや意見を持ち、それを見直したり、賛成意見、反対意見に理由を添えて出し合ったりしながら、「折り合い」を付けて話し合いをしていく。その際、司会者の進行マニュアルに従って、友達の考えと自分の考えを比べ、自分の意見や考えをわかりやすく伝えるなど、豊かにかかり合う言語活動を通して、思考力・判断力・表現力等を高めていく。</p>	<p><b>【視点2】</b> 本議題では、話し合いに必要な言語技術レベルを4段階で設定し、自分の生活や経験をもとにわかりやすく伝える言葉を考えたり、折り合いを付ける発言をしたりする話し合い活動で、児童の思考の過程を評価できる授業を目指す。</p> <p>また、事前の活動、本時、実践までを見取ることができる学級会シートを作成し、記入した意見や考え、話し合いの際の発言や実践の際の児童の工夫点や努力等を評価し、指導の改善につなげる。</p>	<p><b>【視点3】</b> 本議題では、話し合いの流れや提案理由の掲示をしたり、小柱について出された意見をカードに書き、出された意見に賛成マークや反対マークを貼ったりすることによって、板書による視覚化を目指す。本時の話し合いがどのように進んでいるかをフロアの児童が視覚的な情報を得ることによって、思考し、判断することができるように示すことで、主体的な情報活用を促す授業を目指す。</p>

3 第5学年及び第6学年の学級活動(1)の評価規準

集団活動や生活への 関心・意欲・態度	集団の一員としての 思考・判断・実践	集団活動や生活についての 知識・理解
学級や学校の生活の充実と向上にかかわる問題に関心をもち、他の児童と協力して自主的に集団活動に取り組もうとしている。	楽しく豊かな学級や学校の生活をつくるために話し合い、自己の役割や責任、集団としてのよりよい方法などについて考え、判断し、信頼し支え合って実践している。	みんなで楽しく豊かな学級や学校の生活をつくることの意義や、学級集団としての意見をまとめる話し合い活動の効率的な進め方などについて理解している。

4 指導・評価の計画

過程	活動日及び 活動時間	活 動 内 容	指導上の留意点 【三つの視点から】	目指す児童の姿
事前	10/2(水) 放課後	○議題の整理・ 決定	・学級生活に関して、問題意識を高め、学級目標につながる議題を選ばせる。	<b>関心・意欲・態度（観察）</b> 自分たちの生活に関心をもち、よりよい学級をつくらうとしている。
	10/4(金) 帰りの会	○話し合いの予告	・議題や提案理由について、クラス全員への共通理解を図る。	<b>関心・意欲・態度（観察）</b> 提案理由を意識しながら、それに基づいた話し合いにしようとしている。
	10/7(月) 昼休み	○役割・柱・め あての決定	・学級会の時間や実践を見通した計画を立てさせる。 ・分かりやすい柱やめあてを考えさせる。	<b>思考・判断・実践（観察）</b> 見通しを持って話し合いを進めていくための準備をしている。
	10/9(水) 朝の会	○学級会シート への意見記入	<b>【視点2】</b> 一人一人が自分の考えを持ち、発言できるように、意見に対する具体的な理由を書かしておく。	<b>思考・判断・実践（シート）</b> 提案理由を踏まえて、議題に対する自分の考えを書いている。
	10/11(金) 10/15(火) 10/16(水) 昼休み	○進行の仕方な どの打ち合わせ	・司会の進め方、記録の仕方などの打ち合わせをし、話し合いの見通しを持たせておく。 <b>【視点1】</b> 事前に記入した学級会シートを基に、司会進行マニュアルを作成する。	<b>知識・理解（観察）</b> 話し合いの進め方について理解している。
本時	10/18(金) 【本時】	○話し合い活動 「卒業に向けて 話し合おう」	<b>【視点1】</b> 司会進行マニュアルを基に児童の経験を振り返ったり、相手意識を考えたりさせて、思考を深める意見を出させていく。 <b>【視点2】</b> 自分の考えや意見を発表する際は、言語技術レベル表を活用させ、他者を思いやったり、クラスのことを考えたりする発言となるように表現させていく。 <b>【視点3】</b> 出された意見をカードにして貼ったり、賛成、反対などのマークを貼ったりして、板書を視覚的な情報として、話し合いの流れを理解させていく。	<b>思考・判断・実践（観察・シート）</b> 提案理由や学級目標を意識しながら考え、意見を発表している。 <b>知識・理解（観察）</b> 話し合いの進め方や言語技術レベル表を用いての発表の仕方等について理解している。

事後	10/21(月) ～昼休み	○実践の準備	・話し合いで決まったことを基に自分たちで準備を行わせる。	<b>関心・意欲・態度（観察）</b> 実践を成功させるために、進んで準備を行っている。
	11/1(金) ～ 大会当日	○実践	・話し合いで決まったことを基に自分たちで活動を行わせる。	<b>関心・意欲・態度（観察）</b> 友達のことを気遣いながら進んで活動している。
	11/15(木) 帰りの会	○振り返り	・実践を振り返り、友達や自分の頑張りなどをシートに書かせる。 <b>【視点2】実践後の感想等を学級会シートに書かせ、自分の取組を評価させていくと同時に、教師の評価としていく。</b>	<b>思考・判断・実践（観察・シート）</b> 活動を通して、学級集団としてのまとまりと、個人の達成感を味わっている。

5 本時の活動

(1) 目標

絆を深めるための取組について、折り合いをつけながら話し合い集団決定することができる。

(2) 展開

議題	卒業に向けて話し合おう①		
提案理由 提案者 (小形華音・春田璃音)	卒業式までの登校日が、あと100日を切りました。5年生の時から一緒に過ごしてきたこのクラスのメンバーとも、あと半年でお別れです。しかし、まだまだ男女の関わりが少なかったり、友達を思いやれない言動が見られたりします。6年1組の絆をもっともっと深め、「6年1組のみんなと過ごせて、本当によかった。」という気持ちで卒業したいです。この話し合いをすることで、残り半年の小学校生活をさらに充実させることができ、「38人で絆を深めよう」という学級目標にも近づけると思い、提案しました。		
話し合いのめあて	○友達の発表をよく聴き、自分の考えと比べる。 ○クラスのためによりよい方向を真剣に考え、友達の意見を尊重し、みんなで実践できる話し合いにする。		
役割	司会 (川合 巧真) 副司会 (君島 帆香) 書記 (田中 瑛斗) 黒板 (川口 桃花) (永松 彩那)		
活動の流れ	時間	予想される児童の活動	指導上の留意点及び目指す児童の姿 <b>【三つの視点から】</b>
1 はじめの言葉 2 役割紹介 3 議題・提案理由の確認 4 めあての確認 5 柱の確認 6 先生の話	5分	<ul style="list-style-type: none"> <li>今から、「第9回 すごろく会議」を始めます。</li> <li>司会の～です。</li> <li>今日の議題は～です。</li> <li>今日のめあてを確認します。</li> <li>提案理由を、提案者の～さんに言ってもらいます。</li> <li>先生の話です。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>提案理由の確認では、提案者の思いや活動の目的を確かめて話し合いに入らせる。</li> <li>事前に学級会シートに目を通し、自信を持って発表できるよう励ましておく。</li> <li>学級会で決まったことの重要性にふれ、一人一人が本気で話し合いに臨む意識を持たせる。</li> <li>「話し合う」ということは、自分の意見に固執せず、友達の意見を認めたり、譲り合ったりすることが大切であることにふれる。</li> <li>自分の意見や友達の意見を比べて、友達の考えを生かして自分の意見を述べたり、友達の意見との違いを示したりすることが話し合いの深まりになることを、子どもたちが意識できるような話をする。</li> </ul>
7 話し合い 〈柱1〉 「絆を深める」とは、どういうことか。	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>話し合いに入ります。柱1の、「絆を深める』とはどういうことか」について意見を出してください。</li> </ul>	<b>【視点3】</b> 出された意見は、意見としてすべてカードに書き、話し合いの流れを視覚化する手だてとする。

<p>〈柱2〉 絆を深めるために、どんなことに取り組むか。</p>	<p>20分</p>	<div data-bbox="443 163 975 369" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 6の1全員が仲良くなること。</li> <li>・ 友達との結びつきが強くなるということ。</li> <li>・ 相手のことを思いやりながら行動して、信頼すること。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 出された意見を確認します。</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 柱2に入ります。柱1で話し合った、相手のことを思いやって行動し、結びつきの強いクラスにするためには、どんな取り組みをすればよいですか。理由を付けて意見を出してください。</li> <li>・ 出された意見の中から一つに決めていきたいと思います。</li> </ul> <div data-bbox="443 1323 975 1809" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p><b>【予想される取組内容と理由】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ お楽しみ会をすればいいと思います。理由は、みんなで一緒に何かをすれば楽しめるし、仲良くなれるからです。</li> <li>・ あいさつをパワーアップさせる取組をしたらいいと思います。理由は、あいさつをすることは心を開くことだから、絆を深めることにつながると思うからです。</li> </ul> </div> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 絆を深めるために、～をするということでもいいですか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 意見が出ないときや、課題解決がうまく図れないときは、近くの人と話す時間を設ける。</li> <li>・ 出された意見を集約して、「絆を深める」とはどういうことなのか、司会者で考えをまとめ、柱2で「絆を深める取組」を決める際の視点とする。</li> </ul> <div data-bbox="1011 551 1430 792" style="border: 1px dotted black; padding: 5px;"> <p><b>目指す児童の姿</b> 提案理由や学級目標を意識しながら考え、意見を発表している。 思考・判断・実践（観察・シート）</p> </div> <p><b>【視点2】</b> 理由が不明確な場合は、言語技術レベル表を確認させ、賛成意見を持つ児童に理由を発表させたり、他の児童に予想で発表させたりして、友達の意見の意図を理解させる。</p> <p><b>【視点1】</b> 小柱1で確認した「絆を深める」の意味からずれてきた理由を述べた児童には、進行マニュアルに従って司会者から質問を投げかけ修正していく。</p> <p><b>【視点3】</b> 司会者から、板書への注目を促し、話の流れを確認していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ どうしても司会者がうまく進められなかったり、進行マニュアルにない方向へ進んだりしそうなときは、教師が助言する。</li> </ul> <p><b>【視点1】</b> 柱1で決まったことを視点として考えさせ、根拠を明確にして意見を述べ合い、進行マニュアルに従って学級としての総意を決める。</p>
---------------------------------------	------------	--	---

			<p><b>目指す児童の姿</b>  話合いの進め方や言語技術レベル表を用いての発表の仕方等について理解している。  <b>知識・理解(観察・チェックシート)</b></p>
8 決まったことの発表 9 振り返り 10 先生の話 11 終わりの言葉	10分	<ul style="list-style-type: none"> <li>今日の話し合いで決まったことは、～です。</li> <li>次は先生の話です。</li> <li>これで「第9回すごろく会議」を終わります。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>相手の意見を認めたり、工夫した意見を出したりした児童を具体的に認め励ます。特に、折り合いを付けるような発言をした児童を賞賛する。</li> <li>話し合い全体を積極的に評価し、実践への意欲付けができるようにする。</li> </ul>